

活動報告

団体名	スマイリング
活動名	私たちの真備町のための復興を目指した活動
活動期間	2018年10月～2019年3月
活動の成果	<p>大型家具・家電の配布拠点となる場所が真備町であるため大半が真備町の被災された方々が対象となったが、近隣の総社市、玉島や水島などの倉敷市の方々も配布拠点に来場いただきました。集って頂いた全ての方々へという気持ちの反面、物資に限りがあるため応募者多数の場合には抽選とし11回の開催数で702点(世帯)の大型家具・家電を配布し、同時に来場のされた方々からのアンケート結果を地区社協などの関連機関へフィードバックを行いました。</p> <p>心への働きかけでは、係留している熱気球へ真備町の小学生及び幼稚園児と家族を乗せて育ててきた街並みを共有する「空から眺めるわが町、真備町」を開催し呉妹地区の高齢者を含める約130名の方に熱気球で我が家の近隣風景を空から眺めていただきました。また横浜で活動されているI LOVE YOKOHAMA主催の「ハマッ子★サンタ記念日 サンタさんがゴミをプレゼントに変えてくれる！」から活動内容を支援いただき真備町でもコラボレーションし同様な活動を行い、町内の転がっているゴミを拾ってきてくれたお子さん達にお菓子とおもちゃをプレゼント。沢山のゴミが集まりました。</p> <p>2月で終えた物資活動の後はサロン活動へ主軸を載せ替え、今後は休業日の店舗を借りた集いの場作りへ活動を変更しミニコンサートなどを交え心の交流の場を今後も継続的に開催する予定です。</p> <p>最後に、まだまだ解体が進む真備町では解体を待つ家からの家具などの運び出しが頻繁に行われる状況であり、引き取り手を探す声を耳にすることも多く、可能であれば引き受けて望まれる家庭へと届けたい気持ちでいっぱいですが物資をストックする場所がありませんが、現場へ足を運びニーズを繋げる活動を今後も継続してまいります。</p>
寄付者へのメッセージ	<p>私たちスマイリングメンバーの殆どが地元であり約半数の者が被災者しています。家屋の修繕はまだまだこれからの状態でありながら今回のような活動が行えたのも、皆様からの寄付によるものだと本当に感謝しています。</p> <p>今後はサロン活動だけではなく地元メンバーの利点を生かし地域を巻き込む働きかけにより、共に復興に向けて前進する活動ができればと思います。そのためにも今回の災害で得た知識を伝え活かすことで、更地となった土地に新しく建てられる家のご家族に向けた物資のマッチングや、各種の催しによる心のケアにも努めてまいります。</p>

(活動のようす)



2019年
熱気球から見た倉敷市真備町地区の風景

倉敷・総社圏版
Kurashiki・Soja

四日本豪雨で被災し、熱気球で上空から眺めた倉敷市真備町地区。める催しが3日、井原線

上空から「頑張ろう」

備中呉妹駅付近の小田川が、招待され、河川敷であり、招待された同地区の住民らが被災地の現状を確認した。

同地区の被災者らでつくるボランティアグループ「フスマイリング(徳田典子代表)」が、復興への思いを強くしてもらおうと、熱気球1機を約10分上昇させた。

呉妹小(同町妹)の児童や保護者ら計約100人が参加した。曇り空だったが、風も少なく熱気球は安定して上昇。参加者は浸水被害に遭った自宅や小田川の堤防の決壊箇所などを指さしながら、被災時の状況などを思い起こしていた。

半壊した自宅方面に向かい「頑張ろう」と叫んでいた同町妹の会社員井本節信さん(64)は「家屋が減り地面の茶色が目立っていたが、工事が進む堤防など復旧の兆しも感じられた。希望が湧いた」と話した。(西平亮)

空に舞い上がる熱気球
じられ、希望が湧いた
と話した。(西平亮)

真備住民ら 熱気球で復旧確認

と初企画。岡山気球連合会のメンバーが、ロープでつないだ熱気球1機を約10分上昇させた。

呉妹小(同町妹)の児童や保護者ら計約100人が参加した。曇り空だったが、風も少なく熱気球は安定して上昇。参加者は浸水被害に遭った自宅や小田川の堤防の決壊箇所などを指さしながら、被災時の状況などを思い起こしていた。

半壊した自宅方面に向かい「頑張ろう」と叫んでいた同町妹の会社員井本節信さん(64)は「家屋が減り地面の茶色が目立っていたが、工事が進む堤防など復旧の兆しも感じられた。希望が湧いた」と話した。(西平亮)

身近なニユー
会合、催しなど
お知らせくだ

日用品・家庭用品・贈答品・卸問屋
藤井株式会社
倉敷市本町1丁目1-1
TEL:086-661-1141

